

【個人研究】

自傷行為に関する質問紙作成の試み 自傷行為を引き起こす要因についての検討

岡 田 齊*

An Attempt to Develop a Questionnaire for Surveying the Frequency of Self-Injurious Behavior : The Factors Related to the Behavior

Hitoshi OKADA

The purpose of the present study is to examine the psychological factors related to the frequency of self-injurious behaviors in undergraduate students. The self-injurious behaviors scale (Okada, 2002), BDI (Hayashi, 1988), HAI (Hata, 1990), The preoccupation scale (Sakamoto, 1998), DES (Tanabe, 1992), NPI-S (Oshio, 1998), KiSS-18(Kikuchi, 1988), Imaginative Involvement Inventory (Kasai & Inoue, 1993) were administered to 239 undergraduate students. The results of multiple regression analysis showed that the frequency of self-injurious behaviors are mainly explained by the extent of dissociation and depression.

目 的

柏田 (1988) は手首自傷症候群 (wrist cutting syndrome; Rosenthal, Rinzler, Wallsh and Klausner, 1972) について23の症例を検討し、自傷行為を行う際には、抑うつ、いらいら、不安、離人感が伴うと報告し、その動機を構成する要因として、自己の存在感の希薄さや離人感からの脱出するために行う解放的・自己陶酔的・他者の関心を引く他者操作的・3つの要因があると指摘している。また、西園、安岡 (1979) は手首自傷を行った患者には自己愛的、未熟な性格が見られると述べている。しかし、これらの要因は事例研究から指摘された要因であって、定量的に検討されたことは少ないようである。

一方、最近、自傷行為と、解離傾向、PTSD、攻撃性、空想没入性の関係が調査法により検討されてきている。Nijman, Dautzenberg, Merckelbach, Jung, Wessel and Campo (1999) は精神病で入院している患者54人の中で自傷行動を行うもの(24人)と行わないもの(30人)にCTQ (Child Trauma Questionnaire), DES (Dissociative Experience Scales), BDHI-D (Buss-Durkee Hostility Inventory-Dutch), MOCI (Maudsley Obsessional-Compulsive Inventory), SSS (Sensation Seeking Scale) を実施し両者の間で質問紙の得点の比較、質問紙間の得点の相関を求めた。その結果、両群間でCTQとDES、SSSの中で一日にタバコを吸う本数が有意差を示した。また、質問紙間ではCTQとDES、BDHI-DとCTQ, DES, MOCIとBDHIの間でそれぞれ有意な相関が見出されたと報告している。そして、自傷行為の起源は幼児期における虐待と無視にあり、それが解離傾

* おかだ ひとし 文教大学人間科学部臨床心理学科

向に結びつく。しかし、衝動の制御とはそれほど強くは関わらないと主張している。また Muris, Merckelbach, and Peeters (2003) は青年向けの解離性尺度 (A-DES) を作成し、PTSD 体験、空想没入性 (fantasy proneness)、不安神経症との関連性を調査により検討し、この3者がお互いに関連性を持つことを示唆している。

荒川 (2001) は卒業論文研究では自傷についての研究や自傷経験者からのインタビューを基に自傷体験の頻度を調べる29項目からなる質問紙を作成した。そして、岡田 (2002) はこの質問紙の信頼性と妥当性を検討し、その結果を報告した。29項目のすべてを用いて信頼性係数 (Cronbachの係数) を求めたところ0.837となったが、「体毛を抜く」「ピアスを開ける」「煙草を吸う」「骨を鳴らす」の4項目を削除したところで、最大値0.849となった。性差を検討したところ男子平均72.8 (SD19.1; n=91)、女子平均63.4 (SD17.2; n=396) と男子が有意に高かった。さらに因子分析を行った結果、暴力、摂食、血、顔面、手足、皮膚の6因子を抽出したが全体としてのまとまりが強く、下位尺度化しても信頼性係数が低くなるためそれ以上の分析は行われなかった。さらに25項目の総和とうつの尺度であるBDIとの関連性を検討し弱いながらも有意な相関を見出した。

先の研究では質問紙の内的信頼性を中心に検討し、ある程度の信頼性があることが確認されたが、妥当性についてはうつ尺度との関連性を検討しただけで十分に検討していなかった。そこで、本研究では荒川 (2001) が作成し、岡田 (2002) が検討を加えた自傷行為に関する質問紙の妥当性を検討する目的で、自傷行為の事例で報告された要因との関係を大学生を対象に質問紙を用いて定量的に検討する。とりあげる要因は抑うつ、いらいら、敵意、離人感、自己愛、未熟さ、のめりこみ、空想への没入である。抑うつについては林 (1988) が翻訳したBDIを、いらいらに

については敵意とあわせて秦 (1990) が作成した攻撃性の尺度であるHAIの二つの下位尺度を、離人感については田辺・小川 (1992) が作成した解離性体験尺度を用いて測定する。また、自己愛については小塩 (1998) の作成した自己愛人格目録 (NPI-S) を、未熟さについては社会的スキルと置き換えて菊池 (1998) の作成したKiSS-18を用いる。さらに、行為へののめりこみを測定する没入尺度 (坂本, 1997)、空想へ没入する傾向を測るIII (笠井・井上, 1993) も実施する。

方 法

対象者：A大学の女子大学生239人、平均年齢19.65歳 (18～23歳)。部分的に欠測があるため対象者数は分析の対象によって異なる。
質問紙：荒川 (2001) が作成し、岡田 (2002) が報告した29項目からなる自傷質問紙 (資料参照) と、7つの尺度：うつ傾向 (BDI; 林, 1988)、没入傾向 (没入尺度; 坂本, 1997)、社会的スキル (KiSS-18; 菊池, 1988) 解離性 (解離性体験尺度; 田辺・小川, 1992)、想像活動への関与 (III; 笠井・井上, 1993)、敵意的攻撃インベントリーの下位尺度である敵意・いらだち (秦, 1990)、自己愛人格目録 (NPI-S; 小塩, 1998) を実施した。
手続き：調査票は一般教育、専門教育科目の講義の時間に配布しその場で評定を求めた。8つの質問紙は1回の講義で1つのみ実施し、すべてを実施するまでに6ヶ月の期間を要した。

結 果

自傷質問紙29項目の信頼性係数 (Cronbachのアルファ係数) を求めたところ0.820となったが、「体毛を抜く」「骨を鳴らす」「煙草を吸う」「酒を飲む」の4項目を削除したところで、最大値0.830となったので、今回はこの25項目を分析に使用した。

表に使用した質問紙の平均値、標準偏差、対象者数を示す。敵意的攻撃インベントリー

以外はいずれもその程度が強いほど評定値は高くなる。自傷質問紙は8段階評定であり25項目の総和を求めた。解離尺度IIについては28項目の百分率の1項目あたりの平均値を求めた。IIIについては7段階評定であり18項目の総和を求めた。没入尺度については5段階評定であり11項目の総和を、外的没入については7項目の総和をそれぞれ求めた。BDIについては4段階であり、21問のうち第19問(体重が減った)を除く20項目で最も低い値の合計を求めた。社会的スキルについては5段階評定であり18項目の総和を求めた。自己愛人格目録については5段階評定であり優越・有能感10項目、注目・賞賛欲求10項目、自己主張性10項目のそれぞれの総和を求めた。攻撃性尺度は7段階であり攻撃性が高いほど評定値は低くなる、敵意の下位尺度得点は10項目、いらだちの下位尺度得点は7項目の総和を求めた。表1に各質問紙の平均値、標準偏差、対象者数を示す。

表2に使用した尺度間のPearsonの相関係数を示す。いらだちと敵意、優越、顕示、自信の各尺度間の相関は高いがこれはそれぞれが下位尺度をなすからであると考えられる。しかし、没入尺度と外的没入尺度については相関は高くない。今回の調査の目的は自傷尺度

表1 各質問紙の平均値、標準偏差、対象者数

テスト	平均値	標準偏差	対象者数
自傷質問紙総和	59.47	16.46	239
解離尺度	15.29	9.92	251
III	68.66	16.63	258
没入尺度	34.51	7.46	241
外的没入	27.76	4.22	241
BDI	14.06	6.08	255
敵意	39.19	7.81	253
いらだち	32.76	8.28	253
社会的スキル	54.53	8.07	255
優越	38.55	6.26	245
顕示	27.59	6.73	244
自信	27.15	5.86	245

と他の要因との関連性について調べることであるのでそれ以外の尺度間の関係については詳細な検討は行わないが、これらの尺度間の関係も興味深い。

自傷質問紙の総和と他のテストとの相関は

外的没入、NPIを除けば相関係数にばらつきはあるもののすべて有意であった。特に解離尺度と自傷質問紙の間の相関は目につく。さらにBDI、没入尺度、IIIとの相関がこれに次ぐ。しかし、表2に示すように要因となるテスト間にもかなり有意な相関が見られるため、この相関係数をもって関連性を考察することについては多少の躊躇がある。

そこで、自傷質問紙25項目の総和と7種類のテストとの関連性を検討するために自傷質問紙の得点を目的変数、7種類のテストの得点を説明変数として重回帰分析を行った。没入傾向は内的没入、外的没入の2つの下位尺度、HAIは敵意といらだちの2つの下位尺度、自己愛人格目録については注目賞賛欲求、優越感・有能感、自己主張性の3つの下位尺度のそれぞれを合計し得点化したので説明変数は11となった。すべての質問紙を完了した対象者は128人であった。

ステップワイズ法を用いた重回帰分析の結果、重相関係数0.436、自由度調整済みR²は0.170となった。有意となったテストは、解離尺度(; 0.281)、III(; 0.196)、BDI(; 0.190)の3つであった。

次に個々の自傷行為を引き起こす要因をさらに詳しく検討する。各項目は8段階で評定されているが、その段階の間で各テストの得点に差異があるかどうかテストごとに1元配置分散分析により検討したので表3にその結果を示す。項目ごとに平均値と標準偏差を求め、平均値の順に昇順で項目を並べた。最も頻度の低い項目は「刃物で体を傷つける」であり、最も頻度の高い項目は「目をこする」であった。項目によるとその段階の人数が0であったり極端に少ない場合があるためそのような場合には隣接する段階と同じ段階に組み込む形で段階の再編成を行った。表で「段階」として示す項目はもとの評定段階をまとめた段階を示す。例えば2-8とある場合には評定2から8までを同じカテゴリーとして取り扱ったということを示す。最上段にある「刃物で体を傷つける」の場合には評定1をつけ

表2 使用した尺度間の相関係数 上段は相関係数、下段は対象者数

	自傷	解離尺度	III	没入尺度	外的没入	BDI
解離尺度	0.359**					
	215					
III	0.271**	0.258**				
	217	230				
没入尺度	0.253**	0.339**	0.203**			
	207	224	224			
外的没入	0.084	0.236**	0.267**	0.188**		
	207	224	224	241		
BDI	0.271**	0.211**	0.064	0.286**	0.018	
	218	227	228	217	217	
敵意	-0.142*	-0.165*	0.08	-0.213**	-0.056	-0.355**
	209	222	223	218	218	223
いらだち	-0.148*	-0.138*	0.132*	-0.116	-0.114	-0.236**
	209	222	223	218	218	223
社会的スキル	-0.169*	-0.020	0.165*	-0.171*	0.142*	-0.312**
	212	225	236	221	221	231
優越	-0.002	-0.112	-0.280**	0.046	-0.090	0.344**
	204	219	220	212	212	223
顕示	-0.016	0.056	-0.135*	-0.137*	-0.008	0.106
	203	218	219	211	211	222
自信	-0.060	-0.127	-0.179*	0.102	-0.261**	0.215
	204	219	220	212	212	223

	敵意	いらだち	社会スキル	優越	顕示
いらだち	0.421**				
	253				
社会的スキル	0.209**	0.163*			
	221	221			
優越	-0.283**	-0.101	-0.397**		
	226	226	221		
顕示	0.052	0.068	-0.076	0.439**	
	225	225	220	244	
自信	-0.147*	0.029	-0.345**	0.410**	0.198**
	226	226	221	245	244

* p<.05, ** p<.01

た対象者群と評定2～8をつけた群の2群に分け、その間のテストの得点を検定したことを示す。その隣の「テスト」の欄は分散分析の結果有意となったテストを、その隣にはそのときの自由度とF値を、その隣には3段階以上の場合、Tukey法による下位検定を行った結果を示す。下位検定の結果は例えば1段階と2段階の間に有意差があった場合、「1-2」のように表記する。

有意差が多く見られたテストは解離尺度、III、没入尺度、BDI、いらだち、敵意であっ

た。解離、III、没入尺度は自傷尺度の総合得点との相関が高い尺度でもある。また総合得点と相関が見られなかった自己愛人格目録で差異が見られた項目は数少ないが全くないわけでもなかった。全体的な傾向を見た相関や重回帰分析の結果と項目別の結果は大枠では一致するが、項目ごとでは傾向が異なる結果も多く見られた。

全体的には体験頻度が上がるほど有意となるテストの数は少なくなるようである。特に解離傾向は体験頻度の多いものでは有意差が

表3 自傷質問紙の項目毎に関連する尺度

項目	度数	平均	SD	段階	テスト	自由度	F	下位検定	テスト	平均	SD	段階	テスト	自由度	F	下位検定	テスト	自由度	F	下位検定	テスト	自由度	F	下位検定		
刃物で体を傷つける	256	1.12	0.61	1,2-8	解離尺度	1,229	34.76	III	1,231	8.06	没入尺度	1,221	6.97	BDI	2,230	14.07	いらいだち	1,224	4.93	敵意			1,224	11.47		
19(く引く)・切る・刺す																										
26顔や頭をなぐる	255	1.29	0.77	1,2-5	解離尺度	1,228	12.58	III	1,230	5.96	没入尺度	1,220	4.75													
21無理やり吐く	256	1.30	0.77	1,2-6	解離尺度	1,229	9.65	III	1,231	6.00																
5指をしゃぶる	255	1.31	0.83	1,2,3-8	解離尺度	2,227	3.36	1,2,	2,228	3.31																
25血を吸るのが好き	255	1.35	1.01	1,2-8	解離尺度	1,228	28.61	III	1,230	9.65	没入尺度	1,220	10.27								敵意		1,223	8.83		
17ピアスを開ける	256	1.51	0.76	1,2-7	解離尺度	2,222	6.94	1,2-3,	2,225	4.16	1,2,	没入尺度	1,221	6.79	BDI	1,229	6.22	いらいだち	2,222	4.30	1,3-2,3			1,216	7.41	
15顔を髪や柱にぶつける	255	1.58	1.08	1,2,3-5	解離尺度	2,222	3.45	III	3,229	3.06	1,4-4,	没入尺度	3,219	4.35	1,3-2,3,2-4											
3手や足を噛む	256	1.62	1.17	1,2,3,4-8	解離尺度	3,227	3.28	III	3,229	2.71																
10体を皿が出るほど腫く	257	1.69	1.20	1,2,3,4-8	解離尺度	3,228	3.28	III	3,229	2.71																
7煙草を吸う	256	1.77	1.79	分析せず																						
22物を食べない	256	1.82	1.30	1,2,3,4-7	解離尺度	3,228	3.28	III	4,228	3.25	1,5-5,															
1爪をかむ	257	1.92	1.52	1,2,3,4-8	解離尺度	3,228	3.28	III	4,228	3.25	1,5-5,															
23ころへ行くこと成いこまれそうになる	256	1.94	1.44	1,2,3,4,5-8	解離尺度	4,225	6.13	1,5-2,5	III	4,228	3.25	1,5-5,														
18髪の手をかきむしる	255	1.95	1.48	1,2,3,4,5-8	解離尺度	4,225	6.13	1,5-2,5	III	4,228	3.25	1,5-5,														
6皮膚に爪を立てたり引く	256	2.38	1.77	1,2,3,4,5,6-7	解離尺度	4,225	5.12	1,5-5,	III	5,226	2.72	1,3-3,	没入尺度	4,218	3.33											
8つ理いたりする	255	2.41	1.54	1,2,3,4,5,6-7	解離尺度	5,219	3.92	1,6-2,6	III	5,226	2.72	1,3-3,	没入尺度	5,216	2.65											
28意味もなく歩き回る	255	2.44	1.66	1,2,3,4,5-8	解離尺度	4,225	5.12	1,5-5,	III	4,228	2.60															
9声がかれるほど歌った	255	2.60	1.35	1,2,3,5-6	解離尺度	5,225	2.50		III	4,228	2.60															
20無理やり食べる	256	2.68	1.67	1,2,3,4,5,6-8	解離尺度	5,225	2.50		III	4,228	2.60															
4わざと怖い番組を見る	257	2.77	1.48	1,2,3,4,5-8	解離尺度	5,225	2.50		III	4,228	2.60															
13りりする	255	2.80	1.53	1,2,3,4,5,6-7	解離尺度	5,225	2.50		III	4,228	2.60															
2手や足、顔をつねる	257	3.06	1.97	1,2,3,4,5,6,7-8	有意な尺度なし																					
29取る	256	3.75	1.62	1,2,3,4,5,6-8	有意な尺度なし																					
16まばたきをたくさんする	251	3.81	2.42	1,2,3,4,5,6,7,8	解離尺度	7,219	2.46	III	7,210	2.40	没入尺度	7,210	3.11	1,6-1,8	外的没入	7,210	2.16	いらいだち	5,220	3.46	1,6-3,6					
27煙を飲む	255	4.16	1.46	分析せず																						
14唇をかむ	255	4.62	2.10	1,2,3,4,5,6,7,8	有意な尺度なし																					
12骨を噛らす	256	4.81	2.42	分析せず																						
6体毛を抜く	253	5.49	1.48	分析せず																						
11目をこする	255	5.89	1.50	1,3,4,5,6,7,8	有意な尺度なし																					

生じにくい

有意差が見られたテストの数が最も多い項目は「刃物で体を傷つける」、「血を見るのがすき」であった。後者については頻度を問う質問にはなじまないのだが、前者の項目との類似性を考えると、両項目は手首自傷の頻度を示す項目であることが推測される。有意となったテストは全体の重回帰分析で有意となった項目に加えて没入尺度、いらだち、敵意（刃物のみ）であり、全体的な傾向に加えて攻撃性が要因として加わる傾向が見られる。

全体では関連性がなかったがいくつかの項目で自己愛人格目録有意な差が見られた項目があった。「ピアスをあける」で顕示、「声がかれるほど歌ったり叫んだりする」、「嫌われるとわかっているのにしてしまう」で自信が有意差を示した。同様に社会的スキルについて有意差が見られた項目が「電車のホームや高いところへ行くと吸いこまれそうになる」、「髪の毛をかきむしる」、「皮膚に爪を立てたり引っ掻いたりする」の3項目であった。これらは体験頻度がやや多い群に属する。

考 察

自傷尺度と11のテストの得点の相関を見ると自己愛を除くすべてのテストが自傷傾向と有意な相関を示している。これは柏田（1988）が手首自傷の事例研究で示唆した要因が大学生の日常的な自傷行為においても有効であることを示すことを示唆するものである。しかし、重回帰分析を行った結果から、その中では解離と抑うつのみが有意な変数として抽出されるにとどまった。表2に示すように説明変数となったテスト間に相関が見られたためであろう。しかし、一方で攻撃性、特にいら感や没入性、さらに西園、安岡（1979）が手首自傷の事例研究から示唆した指摘するような自己愛や未熟さは今回調査したような日常的な自傷行為を引き起こす要因とはならなかったようである。さらにNijman, et al.（1999）が指摘するように空想への没入性も自

傷行為との関連性を持つことも見出された。これらの結果をまとめてみると、今回対象となった女子大学生の自傷行為は多くの場合、うつと解離性が高まりさらに空想への（逃避？）傾向が高まると引き起こされるような性質を持つことが示唆される。柏田（1988）の指摘する「解放」が手首自傷だけでなく日常的な自傷行為でより多く行われていることが示唆される。

次に項目別に検討した結果、全体としては相関、重回帰分析の結果とほぼ一致するが全体と異なる傾向も多々見られた。

まず、「刃物で体を傷つける」、「血を見るのがすき」では、解離尺度、没入性尺度、BDI、いらだち、敵意の5つのテストで有意差が見られた。これは、他の自傷行為が没入傾向が高く、解離傾向が高く、空想への（逃避？）傾向が強い場合に引き起こされるが、手首自傷の場合には、うつ傾向といらだちや敵意といった攻撃性が加わる点で他の行為とは異なることを示している。手首自傷と同時に起こると言われる、「顔や頭をなぐる」、「頭を壁や柱にぶつける」といった暴力的行為や、「無理やりはく」、「無理やり食べる」といった摂食の問題の場合にはうつと攻撃性に関する尺度が有意にはならないことを考えると手首自傷の制御にはうつ傾向と攻撃性の制御が重要な要因となる可能性が示唆される。さらに攻撃性で見ればいらだちだけであれば「わざと怖い番組を見る」、「物を殴ったり、蹴ったりする」、「かさぶたやささくれを取る」、「指をしゃぶる」といった比較的穏やかな行為と関連性を持つがそれに敵意が加わると質が変化するように見える。

西園、安岡（1979）は手首自傷行為と自己愛傾向との関連性を指摘しているが今回の調査ではその関係性は見出されなかった。しかし、自傷行為と全く無関係であったわけではなく「ピアスをあける」で顕示、「声がかれるほど歌ったり叫んだりする」、「嫌われるとわかっているのにしてしまう」で自信の3項目では有意差が見られた。しかし、これらの行

為は性質が異なるように思える。「嫌われるとわかっているのにしてしまう」は他の多くの項目と同じように解離尺度、III、没入尺度が有意であるが、「ピアスをあける」ことはIIIと没入、「声がかれるほど歌ったり叫んだりする」は外的没入だけであった。「嫌われるとわかっているのにしてしまう」は先に挙げたメカニズムと関わる行為に加えて自信が加わった場合に生起することが推測されるが、他の二つはこれとは異なる性質を持つようである。ピアスに関しては今回、行ったことがあるかどうかの2水準で検定を行ったが、頻度を問うことにはなじみにくい項目であることが頻度の判断に影響を与えた可能性が考えられる。また、「声がかれるほど歌ったり叫んだりする」は他の項目ではほとんど差が見られないことから、尺度全体との相関は高いものの、他の自傷行為の範疇とは少し異なる行為であるといえるのかもしれない。

また、未熟さが手首自傷と関連するとの指摘があったことから社会的スキルの尺度との関連性を検討した結果、全体とはあまり関連性が見られなかったが「電車のホームや高いところへ行くと吸いこまれそうになる」、「髪の毛をかきむしる」、「皮膚に爪を立てたり引っ掻いたりする」の3項目で有意となった。これらの行為がなぜ関わるのかは明確ではないがこれら3項目においてはBDIにも有意差があることから、うつ傾向と社会的スキルの低さが結びつくことでこのような行為が行われる要因となることが示唆される。

引用文献

- 荒川智美 (2001) 自傷行為 質問紙による現状把握と事例検討 平成12年度文教大学人間科学部卒業論文 .
- 秦 一士 1990 敵意的攻撃インベントリーの作成 心理学研究, 61, 227-234.
- 林 潔 1988 Beckの認知療法を基にした学生の抑うつについての処置 学生相談研究, 9, 97-107.
- 笠井仁、井上忠典 1993 想像活動への関与に関する研究：測定尺度の作成と妥当性の検討 催眠学研究, 38, 9-20.

- 柏田 勉 1988 Wrist Cutting Syndromeのイメージ論的考察 23症例の動機を構成する3要因の検討 - 精神神経学雑誌, 90, 469-496.
- 菊池章夫 1999 KiSS-18の12年 日本性格心理学会第8回大会発表論文集
- Muris P, Merckelbach H, and Peeters E. 2003 The links between the Adolescent Dissociative Experiences Scale (A-DES), fantasy proneness, and anxiety symptoms. *Journal of Nervous and Mental Disease*, 191, 18-24.
- Nijman, H. L. I, Dautzenberg, M., Merckelbach, H. L. G. J., Jung, P., Wessel, I., and Cmpo, J. (1999) Self-mutilating behaviour of psychiatric inpatients. *European Psychiatry*, 14, 4-10.
- 西園昌久、安岡誉 1979 手首自傷症候群 臨床精神医学, 8, 59-65
- 岡田斉 2002 自傷行為に関する質問紙作成の試み 人間科学研究, 24, 79-95.
- 小塩 真司 1998 青年の自己愛傾向と自尊感情、友人関係のあり方の関連 教育心理学研究, 46, 280-290.
- Rosenthal, R. J., Rinzler, C., Wallsh, R., and Klausner, E. 1972 Wrist-cutting syndrome: The meaning of a gesture. *American Journal of Psychiatry*, 128, 1363-1368.
- 坂本真士 1997 自己注目と抑うつの社会心理学 東京大学出版会
- Takeuchi, T., Koizumi, J., Kotsuki, H., Shimazki, M., Miyamoto, M., and Sumazaki, K. 1986 A clinical study of 30 wrist cutters. *The Japanese Journal of Psychiatry*, 40, 571-581.
- 田辺肇 1994 解離性体験と心的外傷体験との関連 日本版DES(Dissociative Experiences Scale)の検討 催眠学研究, 39, 1-10.

資料

次に挙げる項目は、過去2 - 3年の間に、その行為を行なった頻度について、あまり悩まずに答えてください。

回答の仕方は、以下の数字を参考にして、項目の右側の数字に をつけてください。

1 - したことが一度もない	5 - 一ヶ月に数回する
2 - 過去2 - 3年に数回したことがある	6 - 一週間に数回する
3 - 一年に数回する	7 - 毎日する
4 - 2 - 3ヶ月に数回する	8 - 一日に何度もする

1. 爪をかむ 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
2. 手や足、顔をつねる 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
3. 手や足を噛む 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
4. わざと怖い番組を見る 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
5. 指をしゃぶる 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
6. 体毛を抜く(体毛のどの部分か をつけてください)
髪の毛・まゆげ・まつげ・鼻毛・ひげ・その他() 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
7. 煙草を吸う 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
8. 皮膚に爪を立てたり引っ掻いたりする 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
9. 声がかれるほど歌ったり叫んだりする 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
10. 体を血が出るほど掻く 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
11. 目をこする 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
12. 骨を鳴らす(どこを鳴らすか をつけてください)
手・指・足・肩・首・腰・その他() 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
13. 物を殴ったり、蹴ったりする 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
14. 唇をかむ 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
15. 頭を壁や柱にぶつける 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
16. まばたきをたくさんする 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
17. ピアスを開ける 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
18. 髪の毛をかきむしる 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
19. 刃物で体を傷つける(引っ掻く)・切る・刺す
顔・上腕・腕・手・胸部・腹部・太腿・ふくらはぎ・足・その他() 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
20. 無理やり食べる 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
21. 無理やり吐く 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
22. 物を食べない 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
23. 電車のホームや高いところへ行くと吸いこまれそうになる
1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
24. 意味もなく歩き回る 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
25. 血を見るのが好き 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
26. 顔や頭をなぐる 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
27. 酒を飲む 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
28. 嫌われるとわかっているのにしてしまう 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8
29. かさぶたやささくれを取る 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8